



THE対談

佐藤健斗×富田知宏

今回は、スタッツ小学校担当の佐藤と、生徒としてセンターと関わり、今では講師として様々な教室で活動している富田ともひろ先生と対談をしていきます。

佐藤 今回は、よろしくお願ひします。

富田 お願いします。なんか緊張します。こういうのあまり経験したことがないので(笑)

佐藤 リラックスしてやっていきましょう!! 笑

早速ですが、実は、ともひろ先生って自分より勤続年数は、長いよね?

富田 勤続年数は長いですが、ボランティアから始めているので、実際いつから在籍しているのかわかんないですね。でも、ちゃんと働き始めたのは大学1年生の頃だったと思います。

佐藤 へえー。そうなんだ! じゃあ5年くらいってことだね。その期間に新しい先生が入ったり、卒業した先生とかもたくさん見てきたわけなんだけど、この5年間で、センターの印象って変わったりした?

富田 5年間でだいぶ変わりました! 当時は、子どもたちと本気でぶつかり合って遊ぶイメージでしたけど、今は、それプラス先生たちの授業にかける想いや子どもたちに対する愛情が見て取れるようになりましたね。

佐藤 なるほど。でも、実は、昔も今も先生たちの本質は変わってなくて、当時もちろん、一つ一つの授業にかける想いももちろんあったと思うんだよね? それにともひろ先生が気付けるようになったってことなんじゃない?

富田 そうですね。気付けるようになったんですかね。実は、小4から高校卒業までMEIKYOに通っていて、その時の先生だった西川先生と今、話をすると、当時の心境とかを話してくれて、懐かしい気持ちもありましたし、もっとこうしておけばよかったなって思うこともたくさんあります。

佐藤 今、ともひろ先生は、先生として子どもたちの前に立つことがあると思うんだけど、今までの自分の経験から大切にしていることや気をつけていることはありますか?

富田 西川先生や今、運転手で昔先生をやられていた手島先生たちが楽しそうに授業をしていたり、休み時間も本気で関わったりしてくれて、その空間が自分にとって居心地がいいと感じていたので、『自分も先生としてまずは楽しむ』という事を大切にしています。

佐藤 確かに、それは自分も大切にしていることかな。子どもって、自分の思っている以上に自分たちの表情や行動を見ているから、まずは自分が楽しむということは大切かもしれないね。ともひろ先生は、今何の教室に関わってくれてたっけ?

富田 えーっと、スポーツくらぶ、くろぼろし、スタTube、ドッジボール、やどろぼろし、Do曜塾、ネイチャー、YCCですかね。

佐藤 めちゃくちゃ入っているじゃん! 笑

富田 ほんとですね!

佐藤 これだけ色々な教室に携わっていたら、何か印象に残っている出来事や、特別な子どもとの関わりってあったりする?

富田 子どもたちの声ではないんですけど、保護者の方の声で「大人がここまで一生懸命な姿を子どもたちに見せてくれるのありがたい」って言われて、ものすごく嬉しかったですし、それを当たり前にしたって思いました。

佐藤 なるほど! 自分は子どもが好きでセンターに入社したし、自然遊びや自分の好きなことで子どもたちと関わるができるから、他の幼稚園や小学校と比べて、輝く大人の姿を見せられるのは、当たり前かもしれ

ないね。でも、当たり前だけど、自分たちは恵まれた環境にいるって改めて気付かされたね。

色々な教室はもちろん、対象年齢も広く関わっていると思うけど、将来の展望や、こんな教室を自分だったらやりたいなあみたいなことってあったりする?

富田 全然考えていないです。中学生の頃に、スタッツを知って、だんだん興味を持ち始めました。そこから気付いたら、ボランティアとしてスタッツの活動に関わる機会が増えましたし、大学の頃からアルバイトとしてしっかり子どもたちと関わるなかで、いつか自分の夢がセンターの職員として働くことになっていました。なので、今、企画や授業を任せていただいていることが、自分にとってすごい嬉しいことなので、現状満足しちゃっています。ただ、センターには魅力ある先生方がたくさんいて、自分もそんな先生たちみたいになって、看板教師になることが今の目標かもしれないですね。

佐藤 なるほど! 中々熱く語るね! 笑 自分もまだまだだけど、スタッツの魅力ある先生の一人になれるように頑張りたいなって思いました。これからもセンターを盛り上げるため、一緒に頑張っていきましょう!!

富田 よろしくお願ひします!

センターに関わる子どもたちが“いきいき・のびのび”成長できるような環境・関係性を作り続けたいと思います。



佐藤健斗先生(左)と富田知宏先生(右)



活動中の富田知宏先生

大前先生が

子どもの「今」を見つめる



「人と関わり、自分を豊かにする言葉」

こんにちは！スタッツ2歳児クラス、オレンジ帽子担任の大前智也です。僕は、センターの講師として約7年を過ごしてきました。子どもたちと言葉を交わす毎日で、たくさんのやりがいや幸せを感じ、僕自身の心・人生豊かになっています！今回は、「豊かな言葉」についてお話します。

人は、赤ちゃんの時から泣くこと、喃語（あっあ、あうーなど）、1語文、質問期、3語文、会話の成立…などと、乳児期から幼児期にかけて、感情を伝える言葉の発達をみせます。これが一般的な言葉の発達です。

しかし、言葉の発達は、言葉を覚えることだけではないと思います。なぜなら、「人と関わり、自分を豊かにする言葉」が大切だと感じているからです。そのため、スタッツでの活動では、子どもたちが、聞く・伝える・表すことを楽しいと感じられるように意識して、取り組んでいます。

そんなスタッツの野外活動で、実際に体験したからこそ語りた内容がたくさんあります。また、それを聞いてほしい相手（クラス担任、友だち）がいることが、「豊かに語る」原動力になっています。豊かに語るとは、子どもが自分の言葉で思考して、発することです。月齢が低い学年の子にとっては、見つけた自然物を指で差したり、虫を見て怖いと伝えたりすることだけが、豊かに語る第一歩です。そして、豊かに語ることを、「楽しい♪」と感じることが重要です。子どもにとって、自分の発した言葉を、相手が笑顔で聞いてくれるほど、「楽しい♪」と感じることはないでしょう。その際、言い間違いや言葉足らずもあると思います。正しい言葉を教えることも大切ですが、拙い言葉も、子どもが思考して、発している証拠です。例えば、「○○ちゃん何歳？」と聞くと「クサイ！」と答える2歳児の○○ちゃん。周りこいた上の学年の子や僕自身も愛おしくて、思わずニヤニヤしてしまいます。そんな僕たちの様子を見て、「クサイ、クサイ、クサイ…」と連呼して楽しむ○○ちゃん。まさに、「人と関わり、自分を豊かにする言葉」でしょう。

子どもたちの未熟さのなかにある言葉に寄り添い、人と関わる言葉に広げ、「子ども自身を豊かにする言葉へ！」これからも言葉を大切に楽しみながら、子どもたちと関わっていきます。

小原

遊びで育む ココロとカラダ



今回は、各クラスの活動カレンダーやお知らせの手紙について、お話したいと思います。センターから出される活動カレンダーは、先生たちの想いとこだわりの塊だと言っても過言ではありません。電子書籍やペーパーレス化が促進される世の中で、あえて手書きにこだわり、時間をかけて書くことで、授業や子どもたちに対する想いを膨らませています。

さて今回は、お手紙に登場する愛くるしいキャラクターたちの一部をご紹介します。下のイラストは、左から、けんていレックス、佐藤けん先生と先生のキャラクターです。絵が得意ではないけん先生が、お手紙をなんとか楽しく見てもらいたいと考えたキャラクターです。登場ごとに変わる、角度が無茶な?!不思議なポーズには是非、注目してみてください！左から2番目は、ともやマンです。名前の通り、大前ともや先生のキャラクターです。運動神経が抜群で、誰よりも子どもたち想いの優しい心を持ったともや先生を、そのままキャラクターにしました。まさにスーパーマンですね！ともや先生のお手紙は、アートな雰囲気、見応え抜群です。是非、アートな字にも、注目していただけたらと思います。そして中央の芸術的!?なキャラクターは、ハートちゃんマン、川合ゆうしん先生が考えたキャラクターです。これは、ゆうしん先生が学生時代に考案したキャラクターだそうです。半分笑って、半分泣いているのが特徴的です。なぜそのような顔をしているのかは、ゆうしん先生に聞いてみてください！ベテランゆうしん先生のお手紙は、子どもたちがわくわくするような企画でいっぱいです。是非、お子様と一緒に読んでみてください！そして右から2番目は、中野ひでかず先生のキャラクター、ハーゲちゃんマンです。インパクトのある名前ですが、とても優しいキャラクターですね。ひで先生の髪型が坊主だったことから、このキャラクターが誕生しました。ひで先生の文章からは、子どもたちへのアツさを感じられると思います。是非、文章と華を添える様々なイラストとのギャップを楽しんでいただきたいです。

今回紹介した4人だけでなく、他の先生たちも全員手書きで活動カレンダーを作成しています。先生とスタッツのこだわりがいっぱい詰まった活動カレンダーや、お知らせのお手紙、教室のパンフレットをこれからもお渡します。2022年は、改めてお手紙たちにご注目ください！



梶木が

思う！「遊び」と「学び」は一对！



先日、「習慣が主体性を育む」といったテーマの記事を見て、なるほどと思う部分が多くあったので、紹介させていただきます。

高校受験や大学受験を乗り越えるうえで、やる気や粘り強さは、必要不可欠です。これは、中学生の定期テストでも同様です。やる気や粘り強さなどの「学力」や、数値で測ることのできない「非認知能力」は、「よい習慣」を身につけることで鍛えられていきます。

そのよい習慣を身につけるためのポイントは、「子どもの自主性を尊重すること」です。私自身も、子どもたちの様子を見ていて、手が止まっていると「○○しなさい」と指示を出してしまうことがあります。もちろん、必要な指示もありますが、こちらから指示を出し過ぎると、子どもたちは、「指示待ち人間」になってしまいます。これでは、自分で考える習慣が身につかず、言われたことしかできなくなってしまうため、指示の出し過ぎには、気を付けていきます。

また、言われたことをしっかりやることは、言うまでもなく大切です。しかし、自分で選択した機会が少ないと、どうしても周囲に合わせてしまいます。その結果、自分の意志でやり切ることができず、何事も中途半端に終わってしまいます。特に、人に出された指示は、やる気が出にくく、成長スピードも遅くなります。一方で、自ら選択したことは、全力を出し切るからこそ、成功や失敗から多くのことを吸収できます。そういった経験は、ブレない心の強さ・チャレンジ精神を身につけます。そして、自ら新たな目標を立て、積極的に取り組むといった好循環が生まれます。

MEIKYOでは、「主体性」を高めることを教育目標にしています。そのため、私たちは子どもたちにとって、自分の意志で選択する機会をできる限り増やすために、強制するのではなく、選択肢をあたえることを重要視しています。そして、子どもたち自身が選んだ道を、私たちがとことんサポートしていきます。

川合がお届けする

「センター」×「わくわく」= ?



「小学生のわくわく！」

今回は、スタッツ船出後や、小学生になっても広がる名古屋教育文化センターでの「わくわく」をpickup！私自身、10年間スタッツを担当し、これまでたくさんの子どもたちを見届けてきました。この数年は、スタッツの子どもたちはもちろん、スタッツを巣立っていった小学生や、スタッツ小学校・Do曜塾に通ってくれている小学生と関わる機会が増えてきました。

そんな小学生と関わるなかで気付かされることは、「小学生のパワー」と「甘える姿」です。まず、「小学生のパワー」には、様々なプログラムを通して驚かされます。思い返すと、自分自身も小学生の頃は、家に帰るとランドセルを投げ捨て近くの公園に直行。公園には小学校の友だちが自然と集まり、缶蹴りやドロケイを日が暮れるまで何回戦も。そんな毎日に疲れを感じた記憶もなく、その時間を楽しみに夕方を過ごしていました。もちろん今は違い、次の日に残る疲れもなし！笑

しかし、今は夕方の公園で遊び回る子どもの姿はどんどん減ってきています。公園に集まっている子どもたちも走り回る姿ではなく、ゲーム機を持ち寄って遊ぶ姿が多く、少し寂しい気持ちになります。その姿には様々な要因があり、一概に良い悪いは判断出来ません。そんな少し寂しい時代にもかかわらず、スタッツ小学校の活動を通して、どんな環境でも全力で楽しむことができる姿や、意欲的に活動に取り組む姿を見てきました。時代の流れて環境は変わっても、スタッツ小学校に通う子どもたちの根本的なパワーには驚かされ、本当に嬉しくなります。これからも、そのパワーが自然と発揮できるような内容と、関係性を築き続けたいと思います。

もう一つが「甘える姿」です。センターに通う小学生は、本当に素直な子どもらしさを感じます。小学校の出来事を、友達のように話してくれたり、手を繋いできたり、背中に乗ったり、時には恋の相談もしたり。笑 この距離感には特別だと感じています。

今後もそんな特別な関係・特別な環境を通して子どもたちの成長に寄り添い続けていきたいと思っています。

